

公共事業の景観創出がまちづくりに及ぼす効果に関する研究

環境研究部

緑化生態研究室 (研究官 (博士(工学))) 阿部 貴弘 室長 松江 正彦



(キーワード) 公共事業、景観創出効果、まちづくり、類型化、みちしるべ

1. 研究の背景・目的

国土交通省では、2003（平成15）年の「美しい国づくり政策大綱」公表以降、公共事業における景観創出に関わる施策を拡充してきた。一方、まちづくりの現場においては、地域の景観形成やまちづくりに効果を及ぼす、公共事業の景観創出に対する要請が強まっている。

ところが、これまでの景観施策においては、公共事業の景観創出がまちづくりに及ぼす効果が、どのような仕組みやプロセスを経て発現するのか、十分な知見は蓄積されておらず、公共事業担当者が活用できる情報が整えられているとは言い難い。

こうした背景から、公共事業の現場技術者に向けて、まちづくりに効果を及ぼす景観創出を進めるための知見や情報を取りまとめた『みちしるべ』を作成するため、公共事業の景観創出がまちづくりに及ぼす効果に関する研究を進めている。

本研究では、まず、事例分析に基づき、公共事業の景観創出が地域のまちづくりに及ぼす効果を類型化する。そのうえで、効果の相互関係や効果と景観創出手法との関係分析を行い、効果の発現プロセスを解明する。さらに、これらの分析結果に基づき、『みちしるべ』を作成する。

本報では、これまでに分析を行った景観創出効果の類型化について報告する。

2. 景観創出効果の類型化

公共事業の景観創出が地域のまちづくりに及ぼす効果を把握するため、13の景観創出事例の分析を行い、30の景観創出効果を把握した。

これらの景観創出効果について、図2に示すように、「効果の発現の仕方」（横軸）及び「効果の発現要因」（縦軸）に着目し、それぞれ「ソーシ

ャルキャピタル」「環境」「経済」「表彰等」の4項目、「事業の枠組み設定」「事業の進め方」「事業の成果」の3項目の細項目を設定し、効果の類型化を行った。

3. 今後に向けて

こうした効果の類型化を踏まえ、効果間の相互関係及び効果の発現に資する景観創出手法の分析を行い、効果の発現プロセスを解明する。さらに、こうした分析結果に基づき、公共事業の現場技術者に向けた『みちしるべ』を作成する予定である。



写真1 分析対象とした景観創出事例（例）

発現の仕方	ソーシャルキャピタル			環境	経済		表彰等
	人々の意識	人々の行動	仕組み・体制・制度	環境・空間・都市構造	活動	選好	
事業の枠組み設定	まちに対する住民の関心の高まり			都市構造の景観的顕在化 地域シンボルの保全・創出 地域資源(歴史・文化)の発掘・保全	伝統技術の復元・活用 開発技術の他事業への展開		
事業の進め方	官民間の役割分担の重要性の認知 まちづくりに対する官民それぞれの理解の深まり	まちづくり団体(NPO、協議会などの発足) 関係者間(行政機関、地元組織)の連携促進 景観形成推進のための体制構築 行政計画の拡充(景観計画等)					
事業の成果	景観と生活環境の密接な結びつきに関する住民の認知 良好な景観の具体像に対する住民理解の深まり まちづくりの方向性・具体イメージの住民の共有 官民それぞれの景観形成の機運の高まり 外の目に対する住民の意識の高まり 住民同士のコミュニティ意識の向上	住民のまちづくりへの参画 地域活動(イベント等)の増加 地域住民の利用の増加		地域景観の向上 景観整備の周辺地域への広がり 景観創出事業の他地区・他都市への展開 まちの同遊性の向上(新たな動線の創出)	商業・産業活動の活性化 来訪者の増加	街のブランド力の向上	マスコミ・マスメディア掲載の増加 デザイン賞等各種賞の受賞

図1 景観創出効果の類型化

【参考文献】

阿部貴弘、松江正彦、福島秀哉：公共事業の景観創出が地域のまちづくりに及ぼす効果に関する研究、土木学会景観・デザイン研究講演集7巻、2011